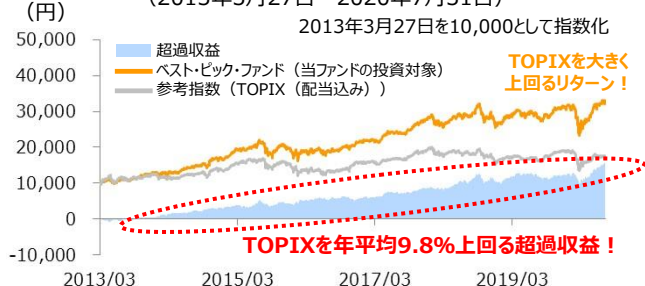


スパークス・ベスト・ピック・ファンド（ヘッジ型） 日本株市場での圧倒的な運用力からもたらされる超過収益

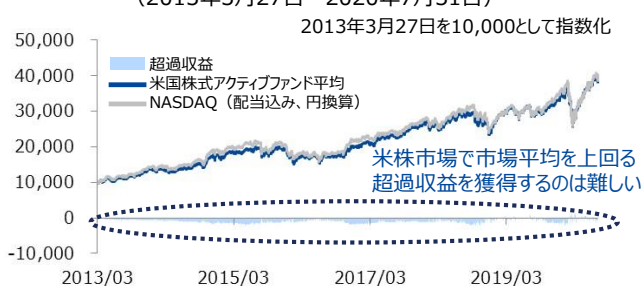
当ファンドのマザーファンドであるベスト・ピック・ファンド（ヘッジ前）の基準価額推移をご覧くださいと、長期にわたって市場平均を上回る超過収益を獲得してきた圧倒的な運用力がお分かりいただけます。一方、近年上昇著しい米株市場では、市場平均を上回る運用を目指すアクティブファンドが安定した超過収益を獲得するのは難しい市場であり、この点において日本株市場は超過収益を獲得するためにふさわしい市場と言えるかもしれません。

当ファンドは7月まで3ヶ月連続で設定来最高値を更新しており、今後のパフォーマンスにもぜひご期待ください。

ベスト・ピック・ファンドとTOPIXの基準価額推移比較
(2013年3月27日～2020年7月31日)

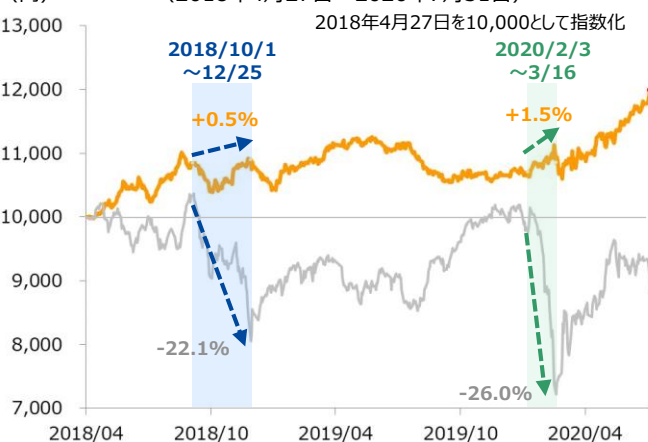


米株アクティブファンド平均とNASDAQの基準価額推移比較
(2013年3月27日～2020年7月31日)



水色の超過収益をリターンとして獲得を目指すのが当ファンドのイメージ

当ファンドとTOPIXの基準価額推移比較
(2018年4月27日～2020年7月31日)



ベスト・ピック・ファンド - TOPIX
→
超過収益
(当ファンドのリターン)

3ヶ月連続で設定来
高値を更新中！
(2020年7月末現在)

当ファンド基準価額
設定来最高値
11,989円
(2020年7月31日)

リスク・リターン特性
(2018年4月27日～2020年7月31日)

	当ファンド	TOPIX (配当込み)	超過収益
設定来	19.89%	-11.39%	31.28%
年率リターン	8.28%	-5.17%	13.45%
年率リスク	7.23%	18.41%	-11.19%
リターン/リスク	1.1	-0.3	

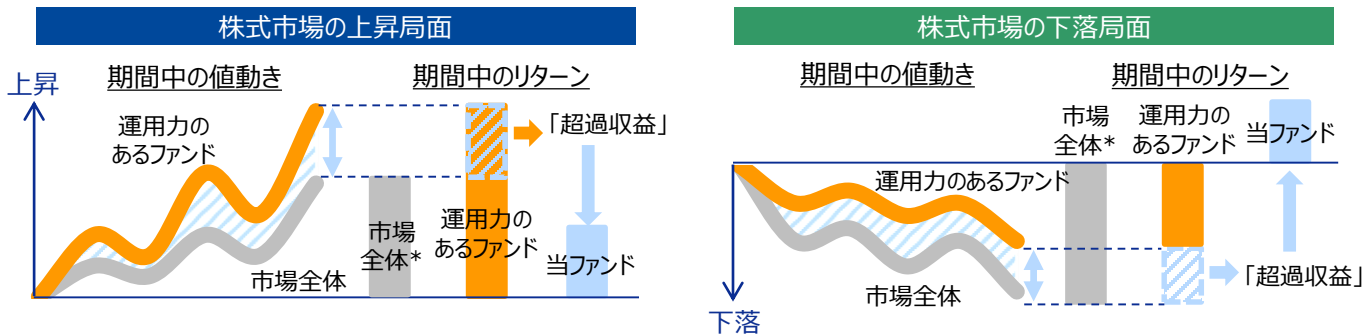
- ※ ベスト・ピック・ファンドのリターンは、同ファンドの基準価額をもとに当ファンドの信託報酬相当を控除して算出しています。
- ※ 米国株式アクティブファンド平均のリターンは、2020年7月末現在、Fundmarkによって海外株式/北米と業種・テーマの投資対象地域が北米に分類される117ファンドのうち、純資産総額が500億円以上かつ運用実績が2018年4月27日以前から存在する（ファンドラップ除く）他社4ファンドの分配金再投資基準価額をもとに算出しています。
- ※ 基準価額は信託報酬控除後であり、参考指数（TOPIX（配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。
- ※ 当該実績は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。
- ※ 年率リターンは計算期間（2018年4月27日～2020年7月31日）におけるリターンを年率換算しています。年率リスクも同計算期間における日次リターンの標準偏差（年率換算）です。

出所： スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.（2020年7月31日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

ヘッジ＝スパークスの運用力を純粋にリターンとして取り出す仕組み

当ファンドのヘッジの仕組みを簡単に表現すると、「組入20銘柄がTOPIXより勝っていたらプラス、負けていたらマイナスになるファンド」です。当ファンドでは、マーケット・ニュートラル運用を活用することで、市場全体の変動に左右されにくいリターンの獲得を目指します。マーケット・ニュートラル運用とは、この市場全体を上回る部分である「超過収益」に着目することで、市場の変動に左右されにくい安定的なリターンの獲得を目指す運用です。



*株価指数先物取引等の売建てを活用することで、株式市場の変動リスクの低減を図ります。

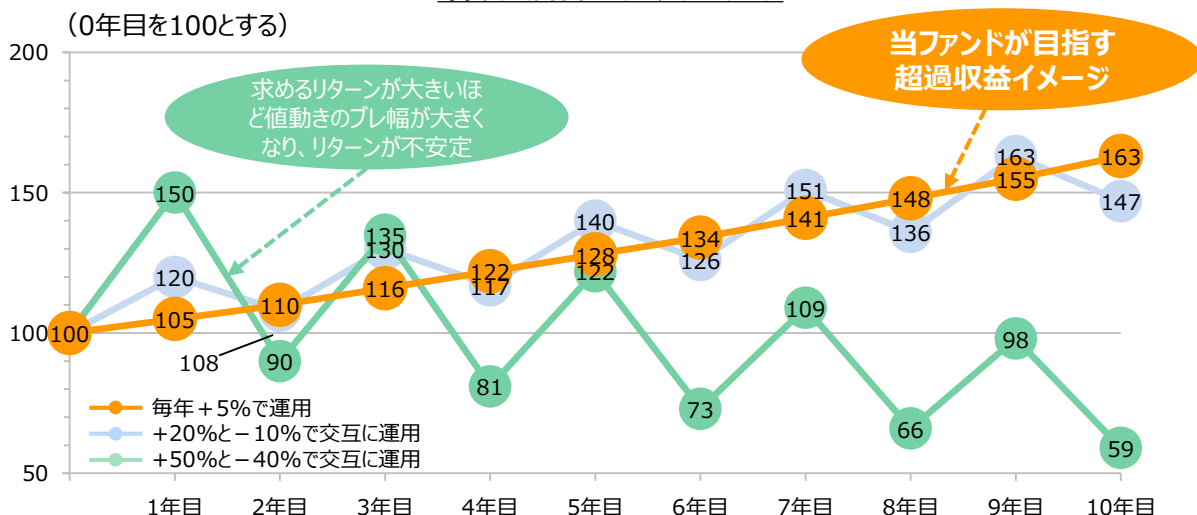
当ファンドのリターンイメージ 引き算で表すと..

	運用力のあるファンド	＝	市場全体 (TOPIX)	＝	当ファンド (超過収益)
上昇局面	+8%	＝	+5%	＝	+3%
	+8%	＝	+10%	＝	-2%
下落局面	-8%	＝	-10%	＝	+2%
	-8%	＝	-5%	＝	-3%

ヘッジしてTOPIXを上回った部分を取り出す
↓
スパークスの運用力を純粋にリターンとして取り出す仕組み！

※ 運用成果が市場全体のリターンを下回る場合、損失となることがあります。
※ 上記は当ファンドの運用への理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。

年間の騰落率別シミュレーション



※ 上記は当ファンドの運用への理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。
※ 上記は前提条件を元にスパークス・アセット・マネジメントで計算したシミュレーションによるイメージであり、将来を保証、示唆するものではありません。
出所：スパークス・アセット・マネジメント (2020年7月31日現在)

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

マザーファンドで見る個別銘柄寄与度と貢献銘柄紹介

当ファンドのパフォーマンスに寄与している銘柄は、以下の通りとなっています。下記銘柄は、ヘッジ前のマザーファンドのリターンにおいて、どのくらい寄与（貢献）していたかを表しています。

設定来（2018年5月～2020年7月） 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+24.03% （※ ご参考 TOPIX（配当込み）：-11.39%）

順位	企業名	寄与度
1	シマノ	4.02%
2	ソフトバンクグループ	3.63%
3	リクルートホールディングス	2.99%
4	(機械)	2.81%
5	(化学)	2.58%

2020年5月 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+10.04%
（※ ご参考 TOPIX（配当込み）：+6.82%）

順位	企業名	寄与度
1	シマノ	1.69%
2	(保険業)	1.24%
3	テルモ	1.03%
4	リクルートホールディングス	0.99%
5	キーエンス	0.84%

2020年6月 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+3.02%
（※ ご参考 TOPIX（配当込み）：-0.19%）

順位	企業名	寄与度
1	ソフトバンクグループ	0.73%
2	(化学)	0.73%
3	ソニー	0.58%
4	(機械)	0.54%
5	日本電産	0.50%

2020年7月 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+3.16%
（※ ご参考 TOPIX（配当込み）：-4.02%）

順位	企業名	寄与度
1	ソフトバンクグループ	1.66%
2	日本電産	1.00%
3	ソニー	0.91%
4	シマノ	0.82%
5	(機械)	0.50%

※ 記載のデータは、当ファンドのマザーファンドである「スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド」の過去の実績をもとに算出したものであり、当ファンドの実績ではありません。また、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。
 ※ 寄与度は、当該期間中のマザーファンドの基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響したかを示したものです。各銘柄の月次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やマザーファンドが負担するコスト（売買手数料など）は考慮されておらず、マザーファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。また、これまで月報で公表されていない銘柄は、括弧書きで業種のみ記載しております。

設定来貢献銘柄 第1位

シマノ (7309)

- 寡占的地位を持つ自転車部品メーカー最大手。スポーツ自転車向け部品は世界シェア約8割。
- 新型コロナウイルス感染拡大により、余暇活動の一環として高級スポーツ自転車の購入や、公共交通機関の代替として通学・通勤用を高機能自転車が普及する可能性あり。いずれの用途も他人との距離をとることが可能であるため、今後自転車需要が世界的に拡大することは十分にあり得ると考えられる。



株価推移（5年間）

（2015年7月31日-2020年7月31日）



※ 上記は当ファンドへの理解を深めたいいただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。

※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

※ 参考指数（TOPIX（配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。

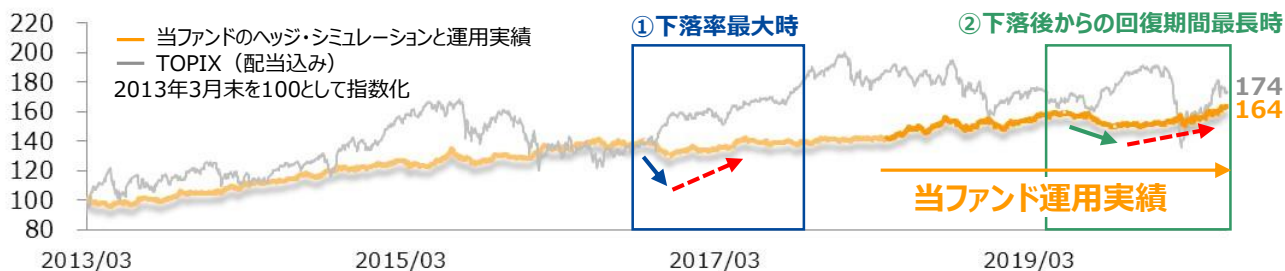
出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.（2020年7月31日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

ファンドが下落するときにはどんな時？どのくらい下落する？回復にかかる期間は？

当ファンドのヘッジ・シミュレーションと運用実績において、TOPIXが短期間に急上昇した際に、基準価額が上昇しにくい局面がございました。しかし、確信度の高い銘柄に集中・長期投資するという一貫した投資哲学を貫き、下落局面を乗り越え、長期的には安定したリターンを獲得しております。市場全体の変動に左右されにくいリターンを獲得することで、“**長期的にプラスのリターンを獲得するためには、大きなリターンを上げることよりも、大きく下落しないことが重要**”をまさに体現しているのが当ファンドの実績です。

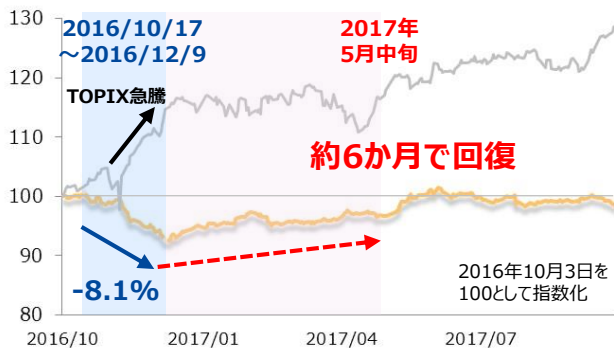
当ファンドのヘッジ・シミュレーションと運用実績
(2013年3月末～2020年6月末)



いずれもTOPIXが急騰したことで全体指数が押し上げられ、超過収益が出にくくなり下落。その後は厳選した組入銘柄が市場平均を上回って推移し上昇、しっかり回復！！

① 下落率最大時

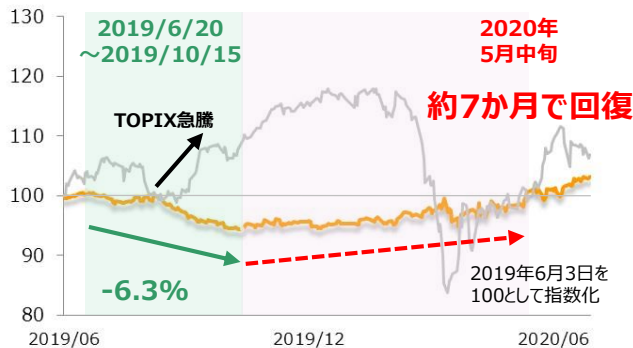
トランプラリーによる下落局面から回復まで
(2016年10月3日～2017年9月29日)



⇒個別銘柄では、下落時に花王・ユニ・チャームなどがマイナスに寄与するも、回復時は花王・キーエンスなどがけん引して上昇！

② 下落後からの回復期間最長時

FRB3回連続利下げによる下落局面から回復まで
(2019年6月3日～2020年6月30日)



⇒個別銘柄では、ソフトバンクグループなどがマイナスに寄与するも、回復時はキーエンス・テルモなどがけん引して上昇！

- ※ 当ファンドのヘッジ・シミュレーションと運用実績における2013年3月末から2018年4月末までのデータは、ベスト・ピック・ファンドの基準価額をもとに、マーケット・ニュートラル運用（株価指数先物取引等の売建てによる株式ヘッジ）を適用した場合のシミュレーションです。当該データは、当ファンドの信託報酬相当を控除しており、リバランス、ロールオーバー等、株価指数先物取引にかかる費用については考慮しておりません。また、ベスト・ピック・ファンドの過去の実績をもとにしたシミュレーションであり、当ファンドの実績ではありません。
- ※ 当ファンドのヘッジ・シミュレーションと運用実績における2018年4月末～2020年7月末までのデータは、当ファンド実績から算出したもので、当該データの分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
- ※ 当該実績は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。
- ※ 参考指数（TOPIX（配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。

出所： スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.（2020年7月31日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本の株式に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用し、株式市場の変動リスクの低減を図りつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行うことを基本とします。

ファンドの特色

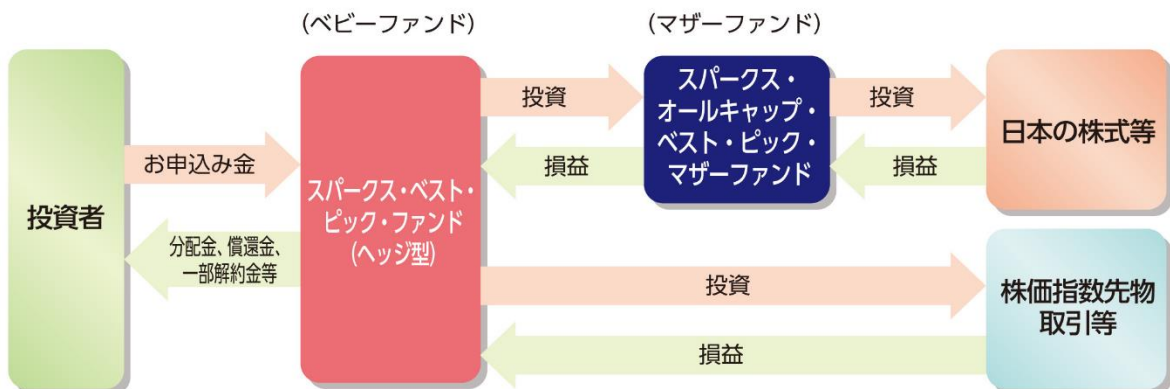
- 1
 - わが国の金融商品取引所に上場している株式の中から、『魅力的』と判断した銘柄に投資します。『魅力的』な銘柄とは、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来、成長していく日本企業(新・国際優良企業)をいいます。
 - ベンチマークや業種にとらわれず、『厳選』した少数の投資銘柄群に集中的に投資を行うことを基本とします。
 - ※ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。
 - 原則として短期的な売買は行わず、長期保有することを基本とします。
- 2 当ファンドにおいては株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、わが国の株価指数先物取引等の売建てによりヘッジを行います。

ファンドの資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファミリーファンド方式※により運用を行います。

- ※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。
 なお、当ファンドは、マザーファンドへの投資のほか、株価指数先物取引等の売建てを行います。



投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、国内の株式などの値動きのある有価証券に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用しますので、ファンドの基準価額は変動します。**従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

集中投資のリスク

当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

株式ヘッジに伴うリスク

当ファンドは、国内の株式に投資するとともに、株式市場全体の変動の影響を低減することを目的として、株価指数先物取引等の売建てを行いますので、株式市場全体が上昇しても必ずしも基準価額が上昇するわけではありません。また、完全に株式市場全体の動きの影響を排除できるものではありません。マザーファンドの株式ポートフォリオの価格上昇の寄与が株価指数先物の価格上昇の寄与より小さい場合、または、マザーファンドの株式ポートフォリオの価格下落の影響が株価指数先物の価格下落の影響より大きい場合等には、基準価額が下落する可能性があります。マザーファンドの株式ポートフォリオの価格が下落し、株価指数先物の価格が上昇する場合、基準価額の下落幅が拡大することがあります。

信用リスク

- ・ 組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。
- ・ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※基準価額の変動要因（投資リスク）は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ・ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・ 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがいさかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

お申込みメモ

※大和証券でお申込みの場合

【購入単位】 100円以上1円単位※または100口以上1口単位

※購入時手数料および購入時手数料に対する消費税率等に相当する金額を含めて、上記単位でご購入いただけます。

【購入価額】 購入申込受付日の基準価額（1万口当たり）

【換金価額】 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した額（1万口当たり）

【換金代金】 原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

【申込締切時間】 原則として午後3時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）

【換金制限】 信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には制限を設ける場合があります。

【購入・換金申込受付の中止および取消し】

金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込受付を取り消すことがあります。

【信託期間】 2018年5月1日から2028年4月14日まで

※受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

【信託期間】 次のいずれの場合等には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還となることがあります。

- 受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合
- 信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき
- やむを得ない事情が生じたとき 等

【決算日】 毎年4月15日および10月15日（休業日の場合、翌営業日）

【収益分配】 年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金受取コース」があります。※ただし、分配対象額が少額の場合等は分配を行わないこともあります。

「分配金再投資コース」をご利用の場合：収益分配金は、税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。
「分配金受取コース」をご利用の場合：収益分配金は、税金を差し引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いします。

【信託金の限度額】 2,000億円を上限とします。

【課税関係】 課税上は株式投資信託として取扱われます。原則として配当控除の適用が可能です。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。

※ 上記は2020年7月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

お客様にご負担いただく手数料等について

下記手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

【購入申込時】

- 購入時手数料： 購入申込受付日の基準価額に**3.3%（税抜3.0%）**を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額

【換金申込時】

- 信託財産留保額： 換金申込受付日の基準価額に対して**0.15%**の率を乗じて得た額
- 換金時手数料： なし

【保有期間中】（信託財産から間接的にご負担いただきます）

- 信託報酬： 純資産総額に対して**年率1.683%（税抜1.53%）**

■ その他の費用等

- (1) 監査報酬、投資信託説明書（目論見書）や運用報告書等の作成費用などの諸費用（純資産総額に対して上限年率0.11%（税抜0.10%））
- (2) 有価証券売買時の売買委託手数料等は、ファンドの運用による取引量に応じて異なりますので、事前に料率や上限額等を表示することができません。

ファンドの関係法人について

- 委託会社 スパークス・アセット・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第346号
 （加入協会）一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
 信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社
 委託会社の指図に基づく信託財産の管理等を行います。なお、信託事務の一部につき株式会社日本カストディ銀行に委託を行います。
- 販売会社 下記一覧参照
 ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いの取扱等を行います。

販売会社		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○

<特化型に関して>

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

〔お問い合わせ先〕 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号：03-6711-9200（受付時間：営業日9：00～17：00）